

『進学事典』導入後、1月以降に 進路相談に来る2年生が増加

スクールデータ

生徒数 / 847人
 (男子599人・女子248人)
 普通科24学級
 進路状況(2010年度) /
 大学・短大進学86.5%、
 専修進学5.2%、
 就職0%、
 その他8.3%

東京都八王子市中野町2647-2
 電話 : 042-628-4912
 URL : <http://www.js.kogakuin.ac.jp/>

工学院大学附属高校は、工学院大学以外への進学が7割を超えている。工学院大学への進学権利を保持したまま、他大学を受けられるため、多くの生徒が他大学受験に挑戦する。この状況を踏まえ、進路指導部では1学年秋の文理選択、2学年秋の科目選択に向けた進路学習を実施。3学年では志望校選定を納めていくまでサポートしている。

「進学事典」を使った進路学習は数年前に導入し、毎年2学年の1月に行っている。「生徒は秋の科目選択が終わると緊張が緩み、進学に向けたやる気がいたん下がってしまいます。科目選択が終わってから『進学事典』を使うのは遅いと考える向きもありますが、やってみると遅いどころかその効果はとて大きい。何しろモチベーションが上がります」と進路指導主任の奥津栄介先生。

学びたい学問を基準に志望校を選ぶ大切さに気づく

進路学習では「進学事典」についている2枚のワークシートを使う。まず「学問分野選択・決定シート」を使い、本誌の学問

分野インテックスから気になる学問分野を記入。学べる内容が詳しく書かれた解説文を抜き書きする。このあと「学校比較シート」を使って、学校情報ページから気になる学校を選択。ワークシートにある所在地、学費などの項目に沿って、学校の特色を書き出し、比較する。

この時期、志望校が決まっている生徒は約半数。しかし学校の知名度やイメージで選んだり、指定校推薦のリストから選んでいる生徒が少なくないという。

「志望校を決めるには、まず何を学びたいのかを考え、その学問が学べる学校を探すと、順番で進めるのが理想です。日頃、生徒にそのことを伝えようとしてなかなか伝わりませんが、『進学事典』を使うと、生徒自身が自然に理想の選び方に気づきます。そこがとて面白いですね」と奥津先生。

自分にぴったりの学校を探そうとする意欲が高まる

かつて3学年の進路指導が一段落する年明けには、進路相談室に相談に来る生徒は減っていた。ところが『進学事典』導

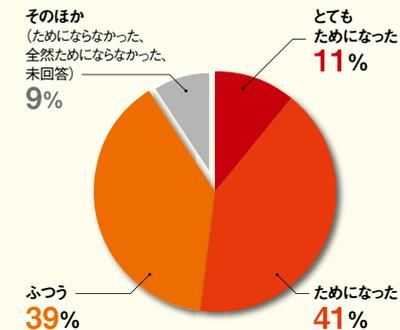
入後、1月以降に2学年の生徒が連日何十人も訪れるようになった。「進学事典」のおかげで、進路を早い時期からきちんと考えたり調べたりする生徒が増えたと実感しています」と奥津先生。

もうひとつ、効果を感じているのは選択肢の広がり。「やりたいことに基づいたの学校はなかなかみつからないもの。はなからあきらめていた生徒も、たくさんの方が掲載されている『進学事典』をめぐっているうちに、自分に一番合う学校はどこなのか、本気で探せばみつかることに気づくのです。なかには志望校を再検討した結果、選択科目を変更する生徒もいます。3学年に進級する前にもう一度考え直すチャンスがあつて、本当に良かったと思います」と奥津先生。

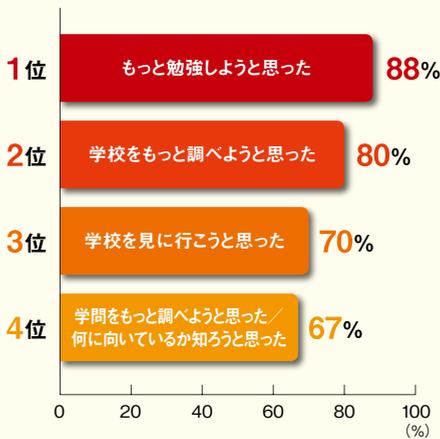
工学院大学への進学を志望する生徒にとっても、他校を検討する機会をもつことは大事だという。「早々に附属の大学への進学を決めるより、他校と比べてもやはり『コ』がよいと納得してから入学したほうが、勉強への意欲が高まるケースが多いのも事実です。このため他大学受験を積極的に経験してほしいという方針で指導しています」

授業後のアンケート

● 今日取り組んだこと、学んだことはどうでしたか？



● 今日学んだあとにどう思いましたか？



「今回の学習の最中、勉強についていっさい触れていないのに、取り組み終了後に勉強へのやる気が俄然高まっているのがおもしろいですね。勉強への意欲につながるような進路学習を、今後も生徒にしかけたいと思っています」という奥津先生。



進路指導主任
奥津栄介先生

「将来やりたいことが何もない」という生徒はよくいます。でもよくよく聞いてみると、心の底には必ず夢や希望があるもの。時間をかけて話を聞き、その答えを生徒と一緒にみつけられたとき、なんともしえづれしい気持ちになります。